

安岡 明雄

改革ネットワーク（青の会、市民の声、シリウス、大河の会、日本共産党）

風の松原を含むイージス・アショア再調査

【問】去る5月、配備候補地となり得る国有地ではない、とされた風の松原。先人の遺産で市民の憩いの広場であり、歴史や価値を無視する防衛省に、調査結果を待たず「不適だ」との意思を示してほしい。

【答】国は先月28日、イージス・アショアを国有地に配備可能かどうかを検討する再調査の概要について県と秋田市に説明したとの報道があった。再調査の対象には、前回の調査で不適とされた風の松原も含まれているが、調査終了後、速やかに関係自治体と地元住民に説明する方針が示されていることから、今後の国の動向や県の対応を注視していきたい。

厚労省が発表した児童虐待の状況から

【問】全国と同じく秋田県も、毎年ふえ続けている。虐待対策の力ギは「予防」であり、母子生活支援施設の役割は重要、との指摘もある。市の現状をどう把握し、虐待予防など市の役割をどう考えているか。

【答】虐待を受けた子供の身体的状況及び生活環境等について、市の担当者、家庭相談員、警察署等の関係機関と情報を共有しながら、適切に対応している虐待防止に当たっては、発生予防、早期発見・早期対応が重要であることから、今後、子供の安全確保を最優先に、各関係機関と連携を密に対応していく。

その他の質問事項

- 自治会要望に対する対応のあり方
- 洋上風力の報告は膝を交えた意見交換で
- 公共施設再編は市民合意を得る努力を

各委員会での主な審査概要

決算特別委員会

30年度一般会計と特別会計の決算を認定

9月11日に決算特別委員会を開催し、総務企画分科会、文教民生分科会、産業建設分科会の3分科会を設置し、一般会計と10の特別会計の決算を審査しました。一般会計の決算額は、歳入280億8084万793円、歳出273億5076万2245円で、歳入歳出差引額は7億3007万8548円。全特別会計の決算額は、歳入148億9431万1704円、歳出143億3374万3829円で、各特別会計とも黒字決算または収支同額でした。審査の結果、決算を認定すべきものと決しました。審査の主な質疑に対する答弁概要は次のとおりです。

歳入

【実質単年度収支】

平成30年度実質単年度収支が黒字に転じた要因については、道の駅ふたついの土地売り払い収入があったことにより黒字に転じたもので、ここ数年の状況としては、やや歳出超過傾向にある。30年度末の財政調整基金があるものの、今年度当初予算において一部繰り入れしており、今後も苦しい財政運営が見込まれる。国の動向を踏まえながらさらなる自主財源の確保や歳出の抑制等が必要になると考えている。

【ふるさと納税】

例年、市の特産品のPRを兼ねて関東能代会、東京二ツ井会の会員にパンフレットを送付している。これにより市の知名度が広がっていくことも期待できることから、今後もふるさと納税の活用を呼びかけていきたい。

歳出

【移住定住環境整備事業費】

これまで移住相談、空き家バンク、移住交流サロン等の支援の取り組みを行っており、20代から40代の移住割合が非常に多い。今後も支援のメニューを充実させ、積極的な活動を続けたい。

【恋文商店街推進事業費】

恋文すぽっときみまちの運営、きみ恋軽トラ市等のイベントの支援を行っている。利用実績は平成28年から増加傾向にあり、誘客は図られているものと考えている。

【つどいの広場の開設場所】

常設の要望もあり、今後、移設の要否も含め検討したい。移設する場合には、学校跡地等の利活用も含め検討したい。

【バスケの街づくり事業】

競技を中心にした各種大会を開催し支援をしているが、これからも一層底辺の拡大を図りながら進めていきたい。

【農産物販路拡大対策事業】

現在のトップセールスはネギを中心としているが、次の農産物については、キャベツを考えている農家の方もいる。計画段階であるが、ネギとキャベツを含めたメガ団地構想もあるため、計画等が整えば支援していきたい。

【市道の除雪】

業者が行う除雪範囲の境界部に雪だまりが生じる状況への対応については、後から行う業者が解消することとしているが、今後予定している業者説明会において周知したい。